

# AIが“できること”が増えるほど、人が“見失っていること”

「このままで、あと3年“選ばれ続ける自信”ありますか？」

そんな問いを投げかけられたら、あなたはどうか答えるでしょうか？

AIの進化によって、これから多くの業種が再編される...

そんな話はもう耳タコかもしれませんが、現場でお客様と向き合っている方なら、こう思うのではないのでしょうか？

「うちの仕事は“信頼”で成り立っている」

「だからAIに置き換わるわけがない」

確かにそうです。

でも...

それで安心していたら、気づかないうちに“じわじわと”選ばれなくなっていくこともあるんです。

AIが「できること」が増えてきた今、逆に問われるのは、人が「やるべきこと」は何か？ということです。

たとえば最近、ある方が言いました。

「AIを使って手紙を書くなんて、気持ちがこもってない気がする」

なるほど、気持ちはわかります。

でもこれは、電卓が登場した1960年代に「そんなもん使ったら、頭が悪くなる！」と言っていた人と同じかもしれません。

大事なのは“**何のために**”使うのか。

樂をするために使うのか。

それとも、相手がもっと笑顔になってくれるように、使うのか。

先日こんな相談がありました。

「AIで作った文章をチラシにしたんですが、全然反応がなかったんですが、やっぱりAIはまだまだ使いものになりませんね」

それは当たり前です。

なぜなら、そのチラシは「誰が見てもこう書くだろ」という、表面的な定型文のような内容だから。

一方で、AIをうまく活用して結果を出している人もいます。

違いは何か？

それは、「AIに聞いて終わり」じゃなくて、

**「AIに何度も問い直し続けているか」**です。

「もっと相手はどんなことで悩んでる？」

「本当に笑顔になるポイントはどこ？」

「これは自分都合の文章になってないか？」

AIが“出した答え”を鵜呑みにせず、

何度も何度も“聞き直す”ことで、ようやく見えてくるものがあるんです。

つまりこれからは...

✔ 表面的な“情報提供”だけの人

✔ AIに「任せきり」の人

は、間違いなく淘汰されていきます。

でも逆に言えば、

- ✓ 深く相手のことを考えられる人
- ✓ AIを“道具”として使いこなせる人

は、どんな時代になっても選ばれ続けます。

お客様の表情が変わる一言。

「なんでそんなことまで分かるの？」と言われる問いかけ。

「この人に任せたい」と思われる空気感。

それって、どんなAIにも出せない“人間らしさ”の中にあります。

そして、それを支えるのが...

普段から、「気にかけているか？」というスタンスです。

これからの時代に生き残る鍵は、ここにあると思っています。

「AIにできないこと」をやる。

それは、「相手の笑顔を思い浮かべて動く」仕事。

そんな姿勢で向き合う人は、どんな時代でも、どんな技術が生まれても、選ばれ続けると私は思っています。

そんなあなたと一緒に歩んでいけたら嬉しいです(^^)